

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	社会福祉法人パートナー グループホーム ハートの家 武番館(第1ユニット)	評価実施年月日	平成19年11月20日
評価実施構成員氏名	武田建太・臼井文子・吉田恵・神田多佳子 伊藤義朗・稲垣美枝子・及川厚子		
記録者氏名	猪股佳和	記録年月日	平成19年11月24日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	<input type="checkbox"/> 家庭的なゆったりとした環境を作り、その人らしい生き生きとした暮らしが出来るよう支援していく。	○	○その人の得意な分野を生活の中で取り入れていく。
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 入社時に説明している。 <input type="checkbox"/> 見やすい場所に掲示している。	○	○ミーティング時等に皆に斉唱してもらい周知する。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 2ヶ月に一度程度、ご家族や町内会長が参加され運営推進会議を実施し理解してもらっている。		○ホーム内でのゆとりある生活をご家族に報告し理解してもらう。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	<input type="checkbox"/> 夏祭り等近所に招待状を出すなど気軽に寄れるような体制をとっている。		○散歩時、ゴミ捨て時等に日常定期名挨拶や会話等ういするよう努めている。
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	<input type="checkbox"/> 町内会主催の展示会に作品を出している。 <input type="checkbox"/> 行事等でボランティア団体への招待。		○今後、町内会でのゴミ拾いの実施。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 講演会や研修会等に参加をして認知症の啓発に努めている。		○区の会議等に参加し他事業所の取り組み、交流を図り情報交換をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○自己評価を職員で行いサービスの質の向上に努めている。		○前年度の反省を元に実行出来ていない事を明確にし改善していく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○会議で出た案や意見を報告しサービス向上に役立てる。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	○電話やメールのやり取りに留まっている。	○	○市町村担当との積極的な関わりを持ち直接サービスの質の向上に繋がるような機会を持ちたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	○認知症研修等に参加することにより学ぶ機会を持っているが活用の支援はまだない。	○	○必要に応じて今後支援していく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○研修会等に参加し学ぶ機会を持っている。	○	○研修後、内部研修や勉強会等を行い虐待防止への意識を高める。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	○契約時十分な時間を掛け重要事項・サービス内容・退居時の対応方法を説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○日常生活において自由に意見や不満をスタッフに話せるような環境を作り、頂いた意見に対しては入居者様に納得のいくような対応をとっている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>○御家族来訪時に日常生活の報告を行なっている。又、特変事項等はすぐに連絡・報告を行なっている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○玄関先に苦情ボックスを設け気軽に意見や要望等を話せるように取り組んでいる。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>○会議やミーティング時等に職員からの意見や提案を聞き、取り組んでいる。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>○入居者様のペースに合わせた職員確保をローテーションで組んでいる。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>○異動・離職・新入社時には入居者様に対する不安感・動揺を最小限で留めるよう努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>○事業所外主催の研修会には職員を受講出来るようにしており全職員に周知出来るよう取り組んでいる。又内部研修も3～4ヶ月に1回開催している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>○他事業所とは管理者の連絡会・報告会でのみ交流はあるがそれ以外は交流の場は設けられていない。</p> <p>○法人内の事業所との交流は行なっている。</p>	<p>○</p> <p>○他事業所が取り組んでいるサービスを参考に取り入れるためにも交流の機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>○スタッフルームの確保やストレス発散のための環境を整えている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>○勤務状況に合わせて職員の資格取得の支援を行なっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>○事前の相談時に不安感や希望することを聞いて把握したうえで対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>○御家族との面談の場で不安なことや求めていることを聞きサービス内容に取り入れるように努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○相談時に本人、御家族の意見や状況等を確認し改善に向けた支援の場合により他サービス機関に繋げるといった対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○生活歴や御家族からの情報によりここでの生活に馴染めるようにサービス内容に組み込んでいる。	○	○職員・御家族(本人)が互いに繰り返し訪問し馴染みの関係を築いていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○行事や季節の風習には必ず入居者様を中心となって日常の暮らしの中で楽しんで喜んだり共感し支えあえるよう心掛けている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○訪問時に職員が御家族に対してご本人の近況を報告しその上で御家族と共に本人を支援している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	○御家族来訪時、入居者様の様子を伝えたり少しでも長く関わりが持てるよう配慮する。	○	○遠方の御家族にも会えるよう機会をもっと持ってもらえるよう働きかけたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○訪問は自由であり、入居者様が自宅に帰りたい時は御家族に連絡をとり外出・外泊できる。		○入居者様は自由に電話や手紙等で連絡がとれるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	○生活歴の中で入居者様の得意なこと・出来ることをしてもらえよう心掛けている。		○食事の準備・調理・掃除等声掛けしたり声掛けしあったりしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○同一法人の他施設に移った方は行事等で一緒になり入居者様・職員とも声を掛け合い懐かしんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○入居者様ひとりひとりの希望・意向を聞き援助している。		○必要なもの、買い物の希望等本人と行ったりしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○生まれてからこれまでの生活歴を入居者様や御家族から情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○日々の日誌やケア計画を記録し申し送りやノートを使い情報伝達をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○検討会議を行いひとりひとりの介護計画を作成している。出来たものを御家族に見てもらい意見等も頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○3ヶ月に1回見直し、状態の変化時には随時見直しを行なっている。		○毎月1回の個別計画の検討会を行なっている。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○日々の記録を日誌に記入している。		○毎日実践した介護計画を記入している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○ボランティア(ダンス)を週1回取り入れている。 ○避難訓練や普通救命講習等で関わりを持っている。 ○地域の文化祭に作品を出品している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。			
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	○運営推進会議を通して包括支援センターの職員も参加し委員会の一員として協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○かかりつけ医に定期受診をし緊急時にもいつでも受診できるような関係を築いている。	○	○将来的には往診等も視野に入れた関わりを持つ。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○専門医と定期受診で関係を築き、職員が報告・相談したり利用者様が自分の言葉で伝えたりしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○訪問看護ステーションとの繋がりはないが24時間気軽に相談できる医療機関を確保している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	○入院した場合、病院関係者と情報交換をしている。職員も利用者様の所を尋ね安心して退院してこられるようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○利用契約時に重度化や終末期に向けた対応を定めている。 ○日常の健康管理にはかかりつけ医と連携し統一した支援を行なっている。		○御家族訪問時に確認の意も含めて相談していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○入居者様の意思や御家族の希望を踏まえたうえで連携医療機関と相談し安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>○移り住む際や受け入れ時には関係者と密に情報を交換し御家族や本人に対して住み替えによるダメージを防ぐように対応している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>○入居者様ひとりひとりに対し誇りやプライバシーを損ねるような対応・言葉掛けはしていない。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>○入居者様の個性を重視して時間を掛けて傾聴し言葉だけではなく表情を見たり全職員で情報を共有しわかりやすい説明を行い押し付けるようなことをしないように取り組んでいる。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>○基本的な1日の流れはあるが買い物・散歩・行事等ひとりひとりのペースに合わせて流れは変化している。 ○入居者様全員の希望に沿って支援できない時もある。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>○洋服の着替えは基本的にはご本人が決めているが見守りや支援が必要なときもある。 ○外出や行事には化粧やおしゃれを楽しむよう支援している。 ○ご本人が希望する理美容を利用している方もいる。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>○調理・盛り付け・配膳・下膳・洗物等の作業を入居者様ひとりひとりの力を活かしながら職員と一緒にこなしており食事時間は入居者様と職員が同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気を作るように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	○お酒を好まれる入居者様には行事や希望時(晩酌)に楽しんでもらえるよう支援しおやつ、飲み物をひとりひとりの状況に合わせて日常的に楽しむ取り組みは実施出来ていない。		○飲み物に関しては嗜好を考えコーヒーや紅茶の提供は行なっているがひとりひとりの状況に合わせてというところまでには至っていない。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	○毎日の記録を活用し全職員で共有して排泄パターンを把握しトイレ誘導をすることで失禁が減りパットを使用しなくなった入居者様もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	○基本的に入浴日は決まっているが嫌がっているが嫌がる入居者様には無理強いないせず希望する入居者様には入浴してもらっている。 ○入浴には個人の時間を大切にコミュニケーションを十分にとり安心して楽しんでもらうよう支援している。 ○夜間の入浴は取り組んでいない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	○不眠時には傾聴し安心を促すよう心掛けている。個々の状態にあった活動を支援し生活リズムを整えるようにする。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	○入居者様の経験を活かせる環境を作り、共に楽しめるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○金銭管理が出来る方に対しては個人で使用してもらっているが家族よりお金を預り事業所が管理している方は買い物時、気軽に使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	○天候の良い日、本人の気分・希望に応じて散歩やドライブ・買い物等に参加出来るよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	○地域のイベントや行事、年1回の温泉・花見等には御家族も参加出来るよう計画している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○御家族や友人に電話を掛けることを希望された時はいつでも掛けれるように支援している。 ○御家族から手紙やハガキが届いた場合は本人に渡している。返事を出していることもある。代筆もしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○御家族・知人はいつでも訪問でき、食事・おやつの時には一緒に食べて頂けるよう声掛け工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○検討会やミーティング等で身体拘束をしないケアを話し合い取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○入居者様が外出したい時はいつでも出掛けられるようになっているが必ず職員が同行して安全に配慮している。体調や天候が思わしくない時は声を掛けて納得して中止してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○職員は必ず日中は1名見守りやすい位置にいる。他職員も物音や様子を把握出来るよう意識しながら行動している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○入居者様の状況に合わせてながら保管・管理する物と安全な物を分けている。 ○使用する場合に注意が必要な物は職員の見守りで使用して頂く。	○	○針・はさみ・爪切り等使用する時は職員が見守っている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○日々の様子を記録し検討会議でひとりひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		○誤薬を防ぐため必ず2名以上の職員で薬の確認を行い内服して頂いている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○外部研修や普通救命講習に参加し参加した職員が勉強会等で全職員に伝えたりマニュアルを作成するなどしている。		○職員全員が緊急時、落ち着いて行動出来るように訓練が必要。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○消防関係の協力を得て避難訓練を行っている。避難場所を提供して頂いている近所の会社に連絡を取り協力を得ている。 ○消火器も分かりやすい場所に設置している。 ○火災報知器・災害時ホットラインの設置。 ○運営推進会議時に施設の災害対策について説明し近隣住民の協力を得られるようにしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○入居者様ひとりひとりに起こりえるリスクを検討会議で話し把握し御家族に伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○入居者様の体調変化や異変に気づいた場合、血圧測定・検温・顔色の確認・意識の有無等を把握し状況によっては管理者に報告し指示を仰ぐ。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○個人ファイルに処方箋を管理し内容を把握するようにしている。内服薬が変更になった場合は連絡帳に記入し全員が目を通し確認印を押している。 ○服用の際には2名以上で確認し合い内服している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	○水分摂取や野菜(繊維質)を食べる、運動をする等対応している。 ○排便表をつけ排便の把握を上記の対応を行なう。		○運動等毎日行なえるよう職員が意識し合う。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	○朝・昼の口腔ケアは本人の意識に任せているが夕食後は声掛けや誘導をして支援している。		○入居者様と話し合っても口腔ケアがなされないこともあるので本人の気持ちを考えながら促し続ける。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○それぞれの水分量や栄養摂取量を毎日チェックして個々の味の好みや調理方法を常に検討し工夫し改善している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○感染症について予防チェック表を作成し予防に努めている。 ○感染症を全職員で理解し予防対策に努めている。(研修等への参加)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>○手洗い・うがい等衛生管理マニュアルを用いて食中毒の予防に努めている。</p> <p>○使用した調理器具の消毒、食材の賞味期限の確認等意識付けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>○玄関周りの花壇には花を植え近所の人からも目を引くように心掛けている。</p> <p>○玄関内にはプランターを置いている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>○季節毎に変わる展示スペースがあり入居者様と一緒に飾り付けをして四季の移り変わりを楽しんでもらっている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>○居間の他に外景を楽しめる場所にイス・テーブルを置きゆっくり過ごせるスペースを作っている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>○居室内は本人の好みの色や物を多く取り入れて快適に過ごせるように工夫している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>○共同スペースには温度計・湿度計を設置し適切な温度・湿度を保つようになっている。</p> <p>○居室内は入居者様にあった室温をこまめに温度調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	○歩行場所には障害になるような物は一切置かず移動場所には手すりを設置して自立した生活が送れるようになっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	○トイレ等の表示は入居者様の目線に合わせ分かりやすく表示し個々の居室には表札を設置、ドア等には馴染みの物を飾って分かりやすくしている。 ○混乱や失敗時には検討し状況に合わせた環境にしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	○畑の横にはイスを置いていつでもくつろげる場所を工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)